県労連あおもり

2013年８月５日　第 275 号

発行所　青森県労働組合総連合（青森県労連）
〒030-0852 青森市大野若宮 165-19　Tel 017-762-6234

発行人　青森県労働組合総連合（毎月５日発行）定価 10 円
1992 年 10 月 30 日　第三種郵便物認可
本紙の購読料は組合費に含まれています。

開始にあたり市民に訴える奥村県労連議長

最賃引き上げ
座り込み行動実施
審議会傍聴、意見陳述も

７月23日、県労連は青森駅前公園で最賃引上げの座り込み行動を実施しました。全国一律で時給千円の実現を目指す運動の一環。座り込み時間は、千円と県最賃額654円の差346円と同じ346分（５時間46分）。４月からのパート・臨時労組連絡会との共同街宣・署名・シール投票、５月の全労連東北ブロックキャラバン各県労働局要請に続く節目の行動です。

開始は10時、終了15時46分。参加者は延べ12団体、35名。冒頭の挨拶で奥村県労連議長は、安倍首相が盛んに自慢するアベノミクスは国民、特に若者の雇用と生活を根底から破壊するもの、参院選での勝利をテコにした暴走を許さず、働く人々の収入底上げには最賃の大幅引き上げは不可欠。出来るだけ早い時期に800円、20年までに千円にすることは、政労使の合意事項。約束を守るよう強く訴えました。

参加者は、交替で次々マイクを握り、現行最賃額がいかに低いかを生活実態に照らして訴え、また、チラシやティッシュの配布活動を並行して実施しました。テントを張り横幕、ポスター、ノボリ旗を掲げ、歌声を交えた座り込みに、駅前を行きかう市民や観光客から、大きな注目を浴び続けました。

この日は、平成25年度最賃額改定の中央最賃審議会の答申作業を受けた、青森県最賃審議会の第1回会合日でもありました。県労連から８名が傍聴。今副議長が大幅引上げの必要性を、貧困の実態と原因や、企業と政府の責任を問う詳細な意見陳述をしました。

審議会傍聴の県労連代表

相次ぎ憲法講演会
県内５ヵ所で420名参加

五所川原会場

全国９条の会事務局長・小森陽一氏（東大教授）を迎えての憲法講演会が県内５カ所で相次ぎ開催されました。７月６日午前は五所川原中央公民館、午後は弘前文化センター、夜は平内町勤労青少年ホーム。翌７日午前はコープあおもり本部会議室（青森）、午後は八戸市福祉公民館。参加者は順に120名、85名、58名、33名、120名。合わせて416名でした。

小森氏は、すべての会場で自民党改正草案（昨年４月決定）について詳しく解説。特に、現在及び将来にわたり侵すことの出来ない永久の権利として信託された国民の基本的人権。この基本的人権を「公益及び公の秩序に反しない」範囲に狭め、権力者を縛る現憲法を、国民を縛る憲法に変質させようとしている点を厳しく批判しました。

各講演会場は、主催者の努力により多くの参加者で埋められ、参加者は熱心に聞き入っていました。

全労連共済青森支部総会
共済加入促進を

全労連共済青森支部第４回総会を７月13日午後、県労連会館会議室で約20名の参加で開催しました。支部運営委員長の奥村県労連議長は開会挨拶で、自らの体験も交えて、共済加入の重要性を訴えました。

議案提案は、田中事務局長。質疑討論では、年金者組合の「助け合いあい介護サービス」を組織拡大に結びつけていることや、自治労連の自動車共済加入促進など各加盟単位共済会代議員らから運動経験を含めた発言が相次ぎました。最後に方針と新役員体制を全員一致で確認しました。

◀挨拶する奥村運営委員長

国民とのねじれ一層深まる
― 参院選の結果 ―

第２次安倍内閣発足後初の国政選挙、第23回参院選の結果は予想通りというか、マスコミ誘導もあり、自民党の圧勝だった。ねじれ国会は解消されたかも知れないが、民意とのねじれは一層、深まった。識者の大方の評論は、支持基盤の強さが勝因ではなく、乱立した他の政党の頼りなさに仕方なく自民党を選択したに過ぎないと言う。

当選議席の多くが大政党に有利な選挙区。投票率が史上３番目の低さに表れている。

参院での改憲派議員３分の２以上確保は、阻止した形だが、油断は禁物。ただ、96条改定には民主党も含め反対議員が多い。改憲は安倍首相の思い通りにはいかないだろう。アベノミクスによる雇用と生活破壊策、ＴＰＰ交渉参加が早速始まった。長期政権になれるか注目を浴びているが選挙後、内閣支持率が急落するなど、本性が目に見え始め、安倍内閣が国民の支持を失うのは案外早いかも。それには総力をあげて、安倍内閣の悪政推進と真っ向勝負で闘うことが強く求められている。（T）

■一九四五年七月一七日、ポツダム会談中、トルーマン大統領に原爆実験成功の耳打ち。二ヶ月前にドイツ降伏。関心は戦後世界体制の地図色に移っていた。■米国は対日戦の早期終結をめざし、以前からソ連に対日参戦を要請。会談前の一五日に参戦の確約を得たが実験成功で不要に。■以下は降戦までの歴史＝・七月二六日に米英中三国はポツダム宣言発表・八月六日午前八時に米国原爆広島投下・八日午後一一時にソ連対日宣戦布告・九日午前六時にソ連軍攻撃開始・同日午前一一時に米国原爆長崎投下・一〇日に日本国体護持条件で宣言受諾決定・一四日に日本無条件で宣言受諾決定・一五日に宣言受諾と戦争の終結を発表。■米国は原爆を三個作製、ポツダム会談前日に実験を成功させ、測定装置でその影響力の全てを把握していた。米国主導の日本降伏をめざし、最も殺傷・破壊効果のある投下点を調べて六日に原爆広島投下。日本の降伏表明なしに慌て、ソ連参戦同日に再び長崎投下。関東軍潰走を受け、日本降伏。■米国の原爆投下目的は明らか。生身の人間の原爆データまで持ち去った。『人体実験』だと怒る広島・長崎市民に歴史的正当性がある。宣言受諾が七月中であれば…。戦争遂行者の罪も深い。（タニ）

青森県

満一周年を迎えた金曜行動

今後も続けていく決意

「原発なくせ」「再稼働反対」首相官邸前行動は〝列島共鳴〟状態に拡大。青森県内では、青森市を皮切りに八戸、十和田、むつの４市に広がり、弘前でも独自の形で運動を続けています。行動1周年を機に、青森行動で中心的に奮闘してきた立柳県労連副議長に聞きました。

昨年８月10日から始まった原発なくそう核燃いらない青森金曜行動。あおもりネットワーク事務局有志で始め、早いもので1年を迎えました。通行人に書いてもらったボードのメッセージ、リレートーク、歌声での訴えなど、思いは多くの人々に伝わっていると考えます。

取り組みの中で新しい若い仲間が増えたり、各団体のイベント宣伝もあったり、運動の輪は確実に広がっています。

下北半島の六ヶ所、東通、むつ、大間の原子力関連施設も1年間で様変わりしました。大間原発建設は再開され、むつ中間貯蔵施設は大きく建設が進行、再処理は、淡々と続行中。

現実はどうか。福島原発事故の避難者は、２年５カ月後の今なお、15万人を数え、困窮、健康不安、様々なストレスを抱える生活難は想像をはるかに超えます。事故は収束どころか被害は拡大しています。金曜行動をしないで済む日が来ることを信じて、今後も続けて行くつもりです。

▶青森

▶八戸

▶むつ

▶十和田

【お知らせ】

■8・15青森県平和集会とデモ＝8月15日12時10分～50分、青い森公園

■全労連東北ブロック初級労働学校＝8月17日13時～18日12時、アップルパレス青森

■青森県労連第25回定期大会＝8月24日10時～16時30分、アピオあおもり大研修室（終了後、懇親会あり）

■第4回平和を考える県民のつどい＝9月7日10時～16時、青森市文化会館5階大会議室

建交労全国ダンプが東北６県キャラバン

青森行動を７月５日に実施

向こう側が青森河川国道事務所

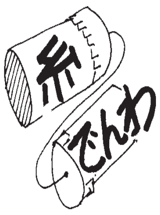
建交労全国ダンプキャラバンの一環として、東北６県行動が７月１日から行われました。今年は20回目。青森行動は７月５日に全国ダンプ部会長、東北各県代表を含め、地元青森からは長内県本部長、菅野書記長、高橋ダンプ支部書記長らが参加。国交省青森河川国道事務所に要請しました。

東北では今年４月に、公共工事労務費の引き上げがありました。現場労働者、特に震災復興労働者の賃金への波及、重層下請構造改善、過積載防止などについて受注業者を厳しく指導するよう働きかけました。

青森ダンプ支部では、県建設業協会、県発注機関への要請を強め、単価引き上げ、使用促進を一層強めて行くつもりです。

次々と定期大会

県労連加盟組合は、本年度定期大会を開催。６月８日の県教組を皮切りに、９月28日の県国公まで次々。県労連は４役で手分け。激励挨拶を続けています。



7月からの給与削減
には本当に困りました。（佐井久美子・県教組）

最近のメディアは
アベノミクス応援ラッパを吹いています。（岡本猛・年金者組合）

夏のボーナスが
楽しみですネ。（三浦久美子・県医労連）

まちがいさがしや
クロスワードが楽しみです。（起田多美子・年金者組合）

梅雨入りしたのに
晴天続きで嬉しい（？）です。食中毒、熱中症に要注意。（今晴美・ひだまりユニオン）

今年も６カ月が
過ぎました。年々、年月の早さを感じます。（長内幸子・建交労家族）

参院選公示！
１票を大切にするのは今でしょ！平和な世界、幸せな日々を願っています。（宇部好子・県教組）

針に糸が
なかなか通りません。やってもらいました。（都谷森孝子・年金者組合）

毎朝、朝ドラ
「あまちゃん」を観て笑い転げています。（成田保・年金者組合）

庭の木にモズの
夫婦が巣作りをした。カッコウが托卵していたのか、モズのヒナが押し出され、落ちた。生存競争の厳しさを見た。（加福重治・年金者組合）

第273回クロスワードパズル

【ヨコのカギ】
①ビールに枝…
③クワガタと並ぶ昆虫採集の花形
⑦砂浜で目隠しをして遊びます
⑨イク…。イケ…
⑩溺れる者はつかむ？
⑪…は損気
⑫神社にいる女性
⑭大勢の中から引き抜いて主役に…する
⑯巻き上げ機械
⑱このヒントは…のカギ
⑳料金を取って貸す部屋
㉑…の横好き
㉓転ばぬ先の…
㉔酒田金時の幼名
㉖三色スミレとも言う
㉗ボクシングの試合場

【タテのカギ】
①新聞や雑誌、テレビ、ラジオなど
②…刀、座右の…
③江戸時代の新聞
④魚偏に師と書きます
⑤…運転は絶対にダメ
⑥一点して新生活
⑧河童の…流れ
⑪このヒントは…のカギ
⑬高校球児が目指します
⑮地、坂、城などの偏
⑰いつやるか…でしょ
⑲こまごました器具
⑳キュウリの…巻き
㉒触らぬ神に…なし
㉔…ポイント。…ホルダー
㉕…より証拠

●ハガキかFAXかメールに回答。氏名、住所、組合名を書いて送って下さい。余白に職場の様子や最近の出来事などをぜひお寄せ下さい。正解者の中から抽選で図書カードをプレゼントします。
●締切＝9月15日●発表＝10月号●宛先＝表面題字下に表記。FAX、メールは欄外に表記。「第273回クロスワードパズル」係まで。

第271回の答えと当選者

《答え》カタツムリ

《当選者》15通の応募で全員正解でした。当選者は次の方々でした。三浦久美子（県医労連）、成田美貴子（年金者組合家族）、佐井由美子（県教組）、藤巻千津子（サンヨーソーイング支部）